

# Friends

ジョイセフフレンズ通信



ジョイセフ  
JOICFP

途上国の妊産婦と女性を守る

Vol. 9 Spring 2012

女は、  
希望だって  
生みだせる



特集

ガーナプロジェクト始動

# ガーナ

## イースタン州で妊産婦の健康改善を目指してプロジェクト開始



ガーナ  
イースタン州

Republic of Ghana

2011年11月より、ジョイセフはガーナのイースタン州コウ・イースト郡ヴォルタ川流域地域で、妊産婦の健康改善を目指したリプロダクティブ・ヘルス (RH) 向上プロジェクトを開始しました。このプロジェクトは日本のODA (外務省・日本NGO連携無償資金協力) の事業として、2014年10月までの3カ年間、運営していく予定です。プロジェクトの運営には、現地のNGOであるIPPFガーナ (ガーナ家族計画協会) とガーナ国の保健局、郡役所のパートナーシップが欠かせません。

プロジェクトの対象地区は首都アクラより車で4時間あまり、イースタン州ヴォルタ川流域に広がる30のコミュニティで、人口約8万人。コウ・イースト郡は2008年に新設された郡で、道路はなく、保健医療の面でも郡営の病院もない、郡には医師が一人もないという現状です。特に、ヴォルタ川沿岸地域には診療所もほとんどなく、保健施設への交通手段も限られており、女性が母子保健サービスを求めても十分に受けられない状況となっています。さらに、地域住民の識字率の低さも相まって、妊娠・出産をはじめRHに関する知識や情報が十分に行き届いていません。

ガーナ保健局の最新の統計によると、保健省が目標とする最低4回の妊婦健診を受けた女性の割合は、同地区では27% (国平均78%)、医療従事者立ち会いによる出産の割合は、30% (同59%) と低い状況です。家族計画の情報やサービスが不足していて避妊実行率も低く (国平均42% に対し11%)、望まない妊娠、特に10代の妊娠、その結果による危険な中絶の増加、高い妊産婦死亡へとつながる危険性をはらんでいます。



各村4カ所、老若男女、村民総出によるプロジェクト開始の集会を開催



「みんなで協力して妊産婦の健康改善を！」とプロジェクト総括である西田良子ジョイセフシニアアドバイザーから挨拶



集会では村の少女たちによる舞の歓迎を受ける

※リプロダクティブ・ヘルス (RH) / ライツとは・・・

人間の生殖システム、その機能と過程の全ての側面において、単に疾病、障害がないというばかりでなく、身体的、精神的、社会的に完全に良好な状態にあることを指しています。人々が安全で満ち足りた性生活を営むことができ、生殖能力をもち、子どもを産むか産まないか、いつ産むか、何人産むかを決める自由を持つことを意味します。そのための情報と手段を得ることができ、差別、強要、暴力なしに、生殖について決定することが含まれます。

ジョイセフのプロジェクトでは、安全な妊娠・出産を含むリプロダクティブ・ヘルズに焦点をあて、質の高いRHサービスの提供と住民のRHに対する知識・意識の向上を目的とした草の根レベルの啓発活動を推進していきます。特に、拠点となる「RHセンター」と診療所4カ所を建設し、並行してサービスを提供する医療従事者の研修を行います。また保健サービスと住民との連携を図るため、保健推進員の育成やコミュニティ・ネットワークの構築等地域に根差した啓発活動を推進していく予定です。



2012年6月の完成を目指して急ピッチで建設が進むRHセンター



建物出入口(左向き)鉄フレームドアの強度他確認中



### フレデリック・オフォス氏 コウ・イースト郡保健局長

プロジェクトの現場で中心的な役割を果たす強力な現地保健局のパートナー。郡政府関係者をはじめ保健スタッフや住民の信頼も厚い。

「妊産婦や女性の健康は家族や地域の健康推進の要であり、この地域のニーズは高いのです。このプロジェクトを通じたジョイセフ、PPAG、郡役所との協力は妊産婦の健康改善への大きな力となると信じています。住民の参加とともに拠点となるRHセンターの建設はその第一歩となり、私もできる限りの協力をしていきたいと思っています」

開会のあいさつをする近泰男理事長



## 第16回「松本賞」は、東日本大震災後の功績が讃えられた2人の産科医に

2012年の「松本賞」受賞者は、北海道大学病院産科長、兼北海道大学環境健康科学研究所教授の水上尚典氏と、岩手県立二戸病院産婦人科長、兼岩手県立北周産センター科長の秋元義弘氏に決まり、3月22日に授賞式が開催されました。

1996年創設の「松本賞」は今年で16回目となり、受賞者は述べ28名という歴史をもっています。

「松本賞」とは…

(社)日本家族計画協会の故松本清一会長の名を冠した顕彰制度であり、わが国におけるリプロダクティブ・ヘルズ、中でも家族計画・避妊の専門的な分野において功績をあげた第一人者に對して授与するものである。選考委員会は、ジョイセフなど5団体で構成されている。

式の冒頭、全員で昨年12月15日に急逝された松本清一会長への黙祷を捧げました。

受賞者の水上氏は、2011年3月11日に発生した東日本大震災直後の東電福島第一原発の爆発以降、日本産婦人科学会に届いた妊娠中の女性や授乳中の女性からの声、そして会員の産科医からの問い合わせに答えるため、放射線被ばくに関する様々な情報や、大気汚染、水道水、食物汚染、母乳汚染などの情報を提供し続けてきました。信頼される数多くの情報を昼夜問わず発信し続けてきたことが高く評価されました。

水上尚典氏(左)と秋元義弘氏(右)  
被災地支援に尽力した北村邦夫氏(中央)



### 秋元氏は、ジョイセフの支援活動にもご尽力

秋元氏は、東日本大震災で甚大な被害のあった岩手県沿岸地域の病院(県立高田病院、県立大船渡病院)にご自身が過去9年間赴任していた経験を活かし(仲間の多くは被災され命を失った)、震災直後、残された医療従事者を中心に「カンオペア女性と若者を支援する会」を結成しました。ツイッターやフェイスブックなどを通じて全国に支援を呼びかけました。また現地の看護師、助産師ともネットワーク「世話焼きさん」を結成し、現地のリアルタイムの声を集めました。一般支援物資とは異なる女性用下着、授乳服、若者向けの漫画、小説、化粧品など約70トンを超える物資を全国より集め、ネットワークとオンラインのSNSを活用し、効率よく配付した貢献も評価されました。

秋元氏は、ジョイセフが全国の企業の協力を得て集めた支援物資の配給にも尽力され、また、2011年11月にジョイセフが主催した被災ママ向けイベントHOPE for Mothers Café@釜石でのトークセッションで、産婦人科医の立場から「ママのココロ&カラダのケア」について講話をしてくださいました。ジョイセフにとっても大変喜ばしい授賞式でした。

ヴィリーナ x マカロン由香 主催  
**ホットママランチパーティ@広尾レポート**

4月1日(日)、広尾にあるポーゲンポール東京ショールームにて、  
 ホットママランチパーティが開催されました。



青木愛さん(左)、政井マヤさん(中央)、  
 千野志麻さん(右)によるホットママ  
 トークセッション



マカロン由香さん(左)

ランチタイムに相応しく、華やかにカジュアルドレスを身にまとった妊婦さんやママたちが200名近く集い、出張料理人のマカロン由香さんによる厳選した食材によるお料理デモンストレーションや、ヴィリーナジャパン代表青木愛さん、司会を務められたアナウンサーの千野志麻さん、アナウンサーの政井マヤさんによるホットママトークセッションが繰り広げられました。

そして、システムキッチンのショールームである会場には、今回のパーティのテーマである「インハウス・ラグジュアリー」な協賛企業の出展ブースが並び、参加者は自宅で過ごしているような疑似体験を楽しんでいるようでした。

また来場者には、1枚500円の「ラッフル・チケット」のご購入により、協力いただいた協賛企業からご提供の豪華商品を抽選で贈呈。当日販売された372枚のチケット代金の全額、18万6000円をジョイセフに寄付していただきました。

information

「ベビーズ ~いのちのちから~」  
 前売鑑賞券

2009年4月に、この世に誕生した4人の赤ちゃん。  
 アメリカ、アフリカ、モンゴル、そして日本。  
 同じ時代に生まれ、全く違う環境で育つ彼らは、それぞれどのように成長していくのだろうか？  
 本作は、世界各国の赤ちゃんたちが誕生してから初めの一步を踏み出すまでという、最も特別な1年間をじっくり撮り続ける、いまだかつてないドキュメンタリーです。

価格(税込)：1,300円  
 チケット1枚につき、100円がジョイセフに寄付され、途上国の女性と妊産婦支援活動資金として活用されます。

販売期間：2012年5月4日(金)まで。ただし、売切れ次第販売終了  
 チケットのご利用：上映劇場・上映期間中のみ、1枚につき1名様限り有効。  
 その他注意事項：払い戻し不可。



映画「ベビーズ」公式サイトはこちら  
<http://babies-movie.net/>



公益財団法人ジョイセフ(会長 明石康)は、途上国の妊産婦と女性の命と健康を守るために活動している日本生まれの国際協力NGOです。戦後の日本が実践してきた家族計画・母子保健の分野での経験やノウハウを途上国に移転してほしいという国際的な要望を受け、1968年に設立されました。国連、国際機関、現地NGOや地域住民と連携し、アジア、アフリカ、中南米で、保健分野における人材養成、アドボカシー(政策提言)、プロジェクト、寄贈品などを通じた様々な支援を行っています。

ジョイセフフレンズ通信 発行：Spring 2012

公益財団法人ジョイセフ  
 Japanese Organization for International Cooperation in Family Planning (JOICFP)

編集発行人：鈴木木一

〒162-0843 東京都新宿区市谷町田1-10 保健会館新館  
 TEL:03(3268)5875 FAX:03(3235)9774  
 E-mail: info@joicfp.or.jp  
<http://www.joicfp.or.jp/>